

地域銀

有価証券運用に外部知見

体制不足補い安定収益

南都銀は3割委託

有価証券運用の高度化に向け、外部知見を活用する地域銀行が相次いでいる。南都銀行は2020年度にアウトソース運用比率を29%に高める計画。島根銀行などはSBIグループと連携する。日本資産運用基盤グループとみずほ信託銀行が共同で運用支援に乗り出すなど、地域銀の選択肢も広がってきた。

南都銀は、アセットマネジメントOne、ブラックロックの運用力を活用する。19年度は有価証券残高の21%上の上安定利回り確保をい手だが、新たな選択

南都銀は、アセットマネジメントOne、ブラックロックの運用力を活用する。19年度は有価証券残高の21%上の上安定利回り確保をい手だが、新たな選択

SCIO（最高投資責任者）だ。同社が重視するのは、中立的立場による投資運用プロセスの改善助言。適切なリスク配賦・管理に向けた体制整備などを支援し、自社では商品を提供し

SCIO（最高投資責任者）だ。同社が重視するのは、中立的立場による投資運用プロセスの改善助言。適切なリスク配賦・管理に向けた体制整備などを支援し、自社では商品を提供し

ない。連携するみずほ信託銀が市場部門の事務を請け負うことで業務効率化も後押しする。大原啓一社長は「数年で20〜30行をサポートしたい」と話す。地域銀では近年、リスクは増すが相対的に高いリターンが期待できる外国債券や私募投信などでの運用が拡大。ただ、専門人材の不足やリスク管理の甘さが否めない例も少なくない。19年度決算では、全102行のうち株式関係損益で41行、債券関係損益で35行が損失を計上した。

島根銀や福島銀行は、資本業務提携した